

農業を始めて2年目、元プロレスラーの異色の農家・山上康弘さんが作るミニトマトが、へたが落ちない、鮮度の持ちがいい、おいしい、と評判を呼んでいる。

「東日本大震災があつて、ますます安心で

安全な日本の食が求められています。それ

でも田舎からは若者が出て行く一方な

で、これからは社会の役に立つ仕事をした

いと考えて、農業の道に進みました」

プロレス引退後、山上さんは農業研修セ

ンターで一年間学び、郷里に戻って新規就

農した。現在は、キャベツ、サツマイモ、

ミニトマトを中心に約3町歩、お米を7反

近く作付けしている。

「野菜づくりでいちばん難しいのが、実はミニトマトだと言われています。枝の生長スピードと実の付き方のバランスをとつて、全体的に均一に、しかも収穫時期が長くなるように工夫が必要です。ミニトマトがつくれるようになつたら、ほかの野菜も自信を持つて栽培できると考えています」

トマトをどう栽培するのか、多くの人はマニュアルを欲しがるそうだ。しかし、山上さんは「作業の9割は現場での観察」と言いきる。それができないと、自分が失敗しているのか、成功しているのかもわからぬというのだ。

例えば、ギザギザの葉っぱをしているは

## たべものがたり

～食材と作り手の、出会いとあゆみ～

第2回【生産者編】

### ミニトマトと山上康弘



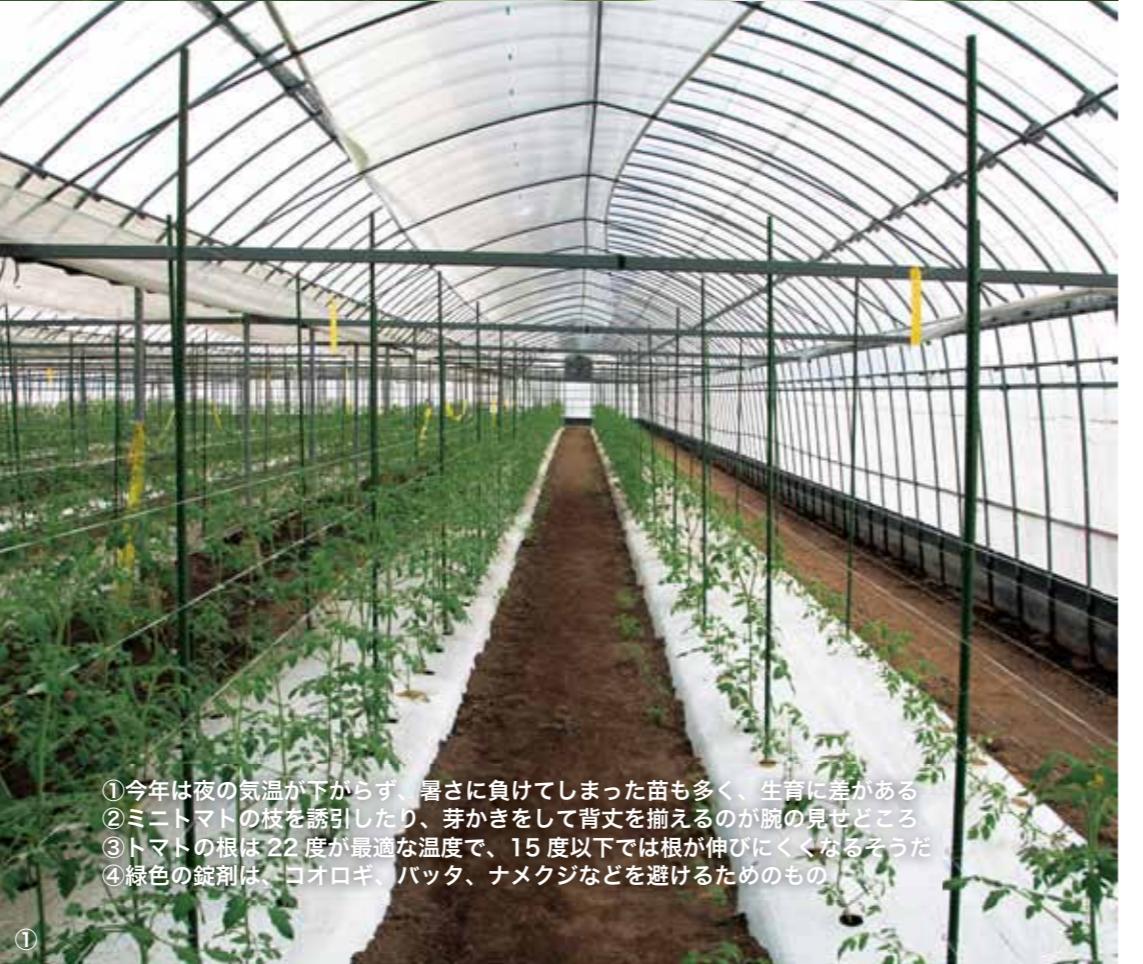
「僕は1800本のトマト苗のトレーナーなんです」と語る山上康弘さん



ミニトマトに話しかけるよう毎日観察しながら、小さな変化も見逃さない

ずのトマトが、丸い葉っぱになっているときは、チソ过多の生育状態。そのほかのリン酸とカリウムが足りない理由として、肥料として与えてうまく育たない。そうだ。だから、リン酸とカリウムをいくら肥料として与えてもうまく育たない。今年は夜間も地温が高くて、リン酸・カリウムを吸收できなかつたことが考えられる。すべて原因があるから結果があるんですね。それは観察しているからわかることがあります。正しく観察しないと、その根拠がわかれず、疑問のまま終わってしまいます」

「土（環境）」「肥料の成分（栄養バランス）」と「育て方（トレーニング）」にこだわった結果、人間で言うところのスポーツマンのような力強いトマトになるのだ。トマトが立派な実を結ぶように注意することが、最終的に消費者に喜んでもらえることには繋がる。安心、安全、健康な野菜を消費者に届けるため、山上さんは「すべてに根拠のある仕事をしていきたい」と話した。※次回の【料理人編】では、「ミニトマト」を使った料理をご紹介します。



- ①今年は夜の気温が下がらず、暑さに負けてしまった苗も多く、生育に差がある  
②ミニトマトの枝を誘引したり、芽かきをして背丈を揃えるのが腕の見せどころ  
③トマトの根は22度が最適な温度で、15度以下では根が伸びにくくなるそうだ  
④緑色の錠剤は、コオロギ、バッタ、ナメクジなどを避けるためのもの



③



④

